

結果概要

「中高年者の生活実態に関する継続調査」第7ウェーブ

2024年1月に発生しました能登半島地震に伴う甚大な被害に対し、心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復旧と復興をお祈りいたします。

<調査対象者>

2010年以来、2年毎に実施されてきた「中高年者の生活実態に関する継続調査」第7回目は2022年1月に実施された。2020年に50代の追加サンプルを含め、今回、回答があったのは、52歳から95歳の男性1,193人（49.3%）、女性1,227人（50.7%）の計2,420人であった（回収率は83.9%）。

本概要では、2020年と2022年のコロナ禍における変化に注目することから、ウェーブ6から継続し、かつ2020年コロナ禍に関する追加調査にも回答したケースに限って検討する。本結果の対象者は、61歳～95歳の男性792人と女性821人の計1,613人である。彼/彼女らの配偶関係は、女性の4分の1以上（27.6%）が死別であるのに対して、男性の8割以上（86.6%）が有配偶である（図1）。

世帯タイプは、女性の17.3%が一人暮らしであるのに対して、男性の半数近くは夫婦のみ世帯である（図2）。一方、子どもと同居する者は女性が39.6%と男性（34.5%）より多い。2年前と比べると、男女ともに、9割近くが同じ世帯タイプで生活をしていた。

<経済状況の変化>

2020年1月に実施された第6回目調査と第7目調査を比較してみよう。まず、就業状況について、2022年時点で、女性対象者の3分の2は仕事に就いておらず、男性の無業者は49.2%とほぼ半数である。年齢別に詳しくみていくと、男性は70代半ばまで多数派が就労状況にあるが、70代後半になると仕事を持つ者が3分の1程度に減少する。女性の場合は、70代に入ると有職者割合が3分の1程度となり、70代後半で仕事をしている者は1割程度とごく少数派となる。2時点間の就労状況の変化をみると、仕事を辞めた者が女性は22.2%と男性の13.2%より多い。

経済状況について、個人収入分布を見たのが図3である。高齢男女の間でも個人収入の違いは明

図1 男女別配偶関係(%)

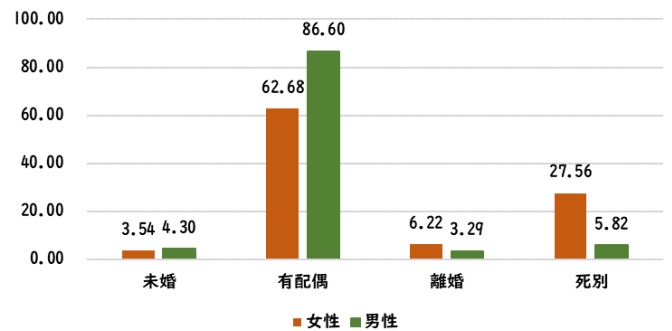


図2 男女別家族類型(%)

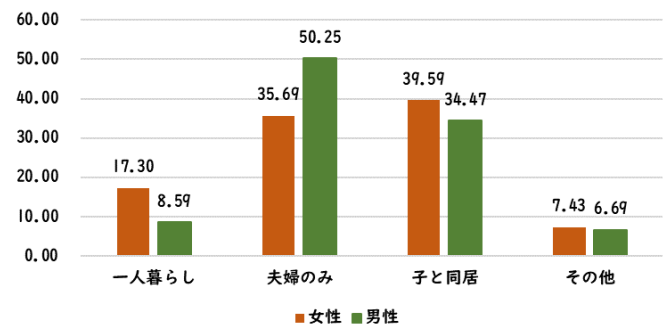
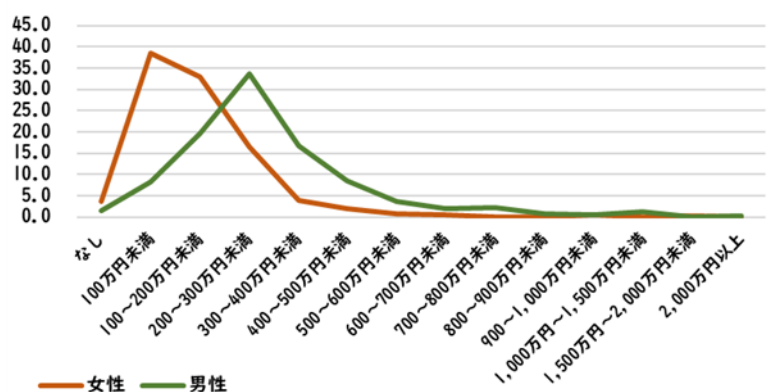


図3 高齢男女の個人収入分布(%)



らかで、女性は個人年収が100万円未満とした者が4割おり、女性回答者の9割以上が300万円未満の収入であると回答した。男性の場合、300万未満の者は63.2%とほぼ3分の2であるが、年収のピークは200～300万にある。2020年と比較すると、個人収入が減少したと回答した者は女性が81.6%、男性71.7%と女性の方が多かった(図4)。年齢別の変化をみると(図5)、60代前半の回答者の85.5%が減少したと回答しており、その背景には引退を含む働き方の変化が関連すると考えられる。

図4 男女別個人所得の変化(%)

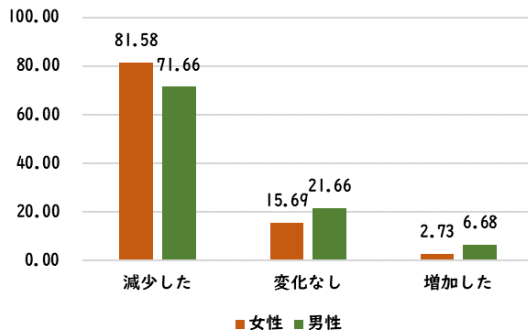
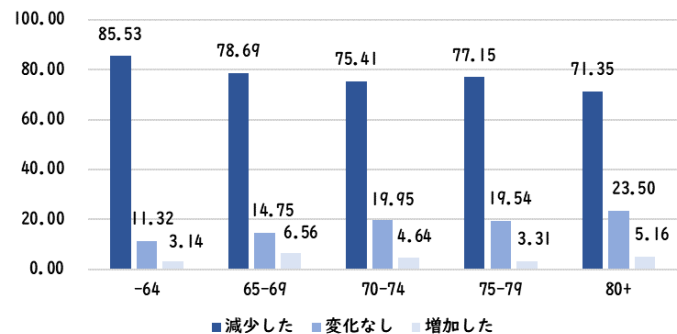


図5 年齢階層別個人所得の変化(%)



<コロナ禍の生活様式の変化>

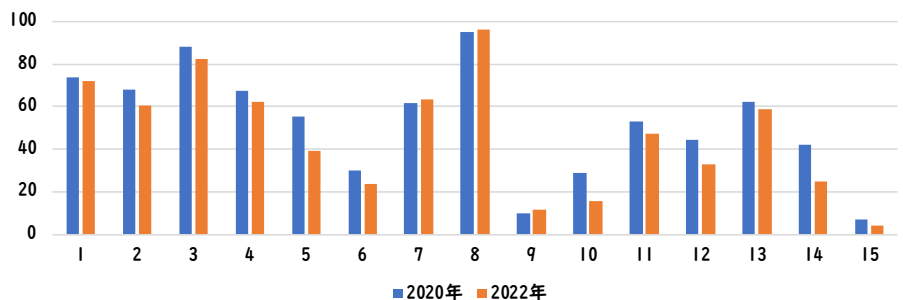
2020年5月と2022年1月に実施した、コロナ禍に伴う生活上の変化について質問した結果である。2020年調査は、コロナ禍の開始時期にあり、男女で大きく異なる生活スタイルの変化が確認された。図6の結果をみても、15の項目のうち、「オンラインによる買い物が増えた」(9)と「在宅での仕事が増えた」(15)以外の項目すべてに男女の間に有意な差があり、女性の方が生活上の変化を認識していた。

2年後、同様の事項での変化如何を質問してみると、有意な男女差を確認したのは、「人との距離(社会的距離)を取るようになった」(2)、「ショッピングに出かけなくなった」(5)、「旅行に行かなくなった」(7)、「買い物の際、混む時間帯を避けるようになった」(11)、「運動量が減った」(12)、「友達と会わなくなった」(13)、そして「在宅での仕事が増えた」(15)の7項目であった。ここでは、最後の「在宅での仕事が増えた」(15)以外、女性に変化したとする回答が多かった。

2年間の変化については、いずれも変化したと回答する割合は減っており、特に減少程度が多い事項は、「混雑時のショッピングを控える」(11)、「家の掃除をよくするようになった」(10)、「運動量が減った」(12)、そして「公共の交通機関をつかわないようになった」(14)であり、コロナ禍の外出規制という外的要因と比較的関係の深い事項に大きな変化が認められる。

一方、「旅行に行かなくなった」(7)とか、「家族との交流を控える」(6)、さらに「友達と会わなくなった」(13)、といった人的交流がコロナ禍前まで回復していない状況も垣間見られた。

図6 コロナ禍に伴う生活上の変化(%)



注) 1「自宅での時間増」2「社会的距離をとる」3「手洗いをする」4「外食を控える」5「ショッピングを控える」6「家族計画キャンセル」7「旅行を控える」8「外出時のマスク」9「オンラインでの買い物」10「家の掃除増」11「買い物時間の調整」12「運動量の減少」13「友達と疎遠」14「公共交通機関の利用控え」15「在宅での仕事」